

令和 5 年 1 2 月 2 5 日

保護者様

横浜市立笹野台小学校
校長 佐々木 和美

令和 5 年度 横浜市学力・学習状況調査 本校集計結果について

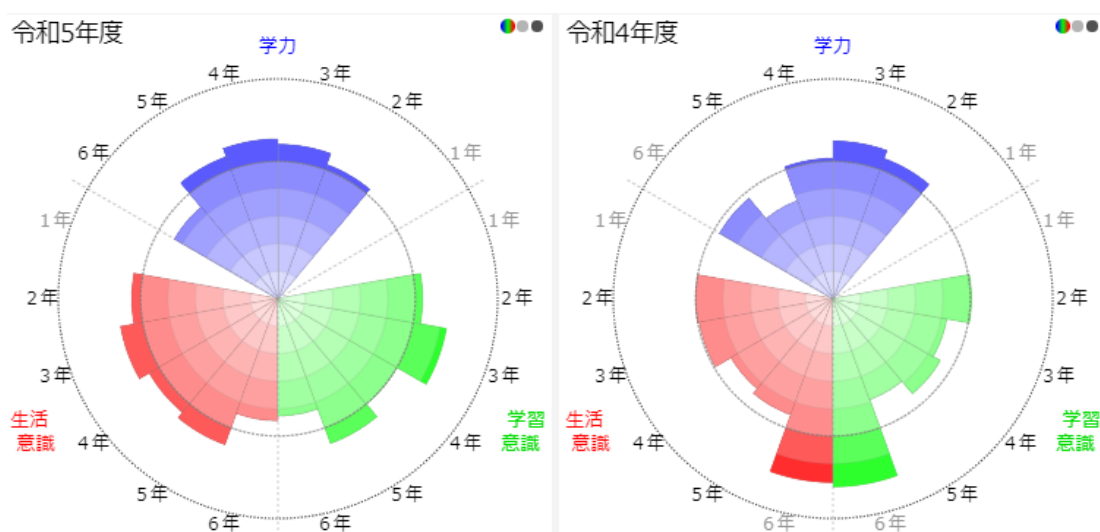
保護者の皆様におかれましては日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、4月に実施いたしました「令和5年度横浜市学力・学習状況調査」について、本校の調査結果をまとめましたので、お知らせいたします。

この調査結果を分析し、日々の授業や児童指導をはじめとする教育活動の充実・向上に生かすことで、本校児童のより一層の成長につなげていきます。

調査結果から見た本校児童のよさと課題等（概要）

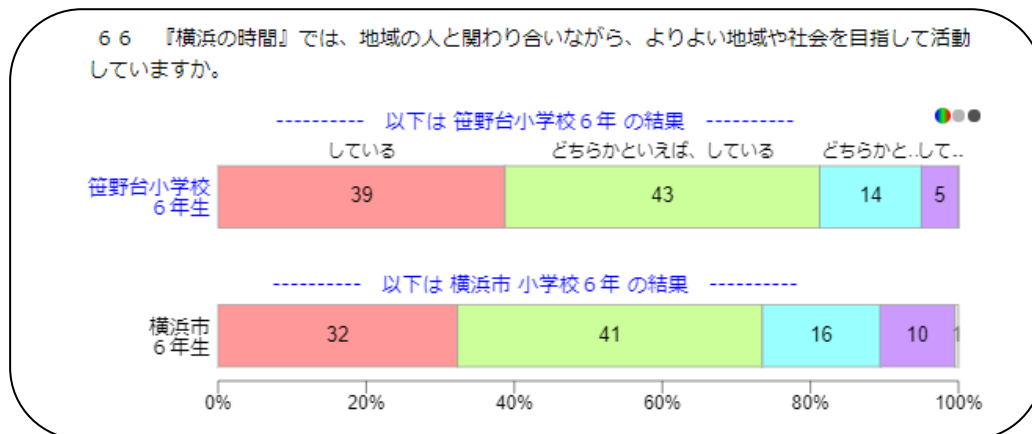
（1）各教科の学力の状況について

- 学校全体を見ると、学年や教科によって偏りが見られるものの、本校児童の学力と学習意識の状況はほとんどの教科において、市全体の平均値付近にある。現3～6年生においては、令和4年度に比べると、学力の向上が見られた。令和4年度の調査結果と比べて今年度学力向上が見られたのは、コロナ禍においてできなかったグループ活動や体験的な学習の機会を増やしたことも、一つの要因ではないかと考える。
- 学習・生活意識調査では、それぞれの教科のよさを感じたり学んだことを生活に生かそうという思いをもったりしながら、学習に取り組む児童が比較的多く見られる。
- これからも各教科で、基礎的・基本的な知識をしっかりと定着させるとともに、じっくり考えたり話し合ったりする学習を行い、「主体的に考え、判断し、学び合う子」を育てていきたい。

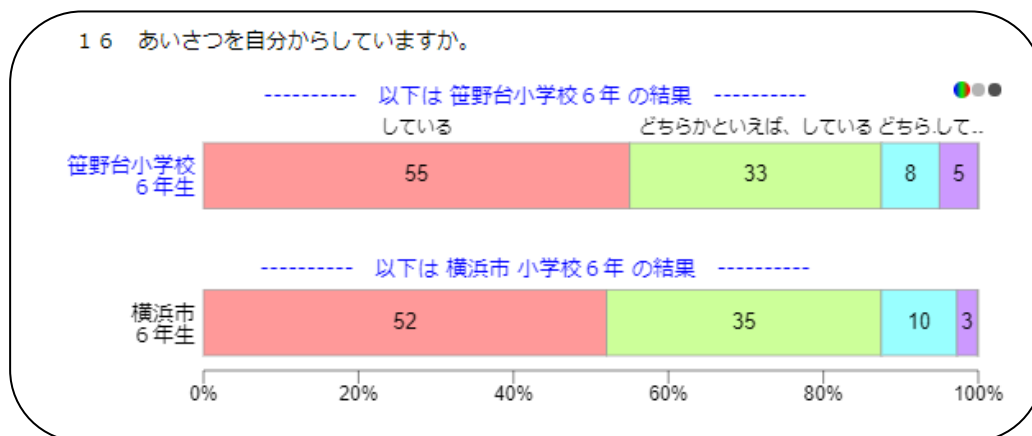


(2) 学校や家庭での生活意識について

○学校全体を見ると、『横浜の時間』では、「『横浜の時間』では、地域の人と関わり合いながら、よりよい地域や社会を目指して活動していますか。」「生活の学しゅうでは、まちの人とかかわり合いながら、自分の生活をよりよくしようとしていますか。」の設問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合が市平均より高い。生活科や総合的な学習の時間に、地域や外部の方との関わりを大切にしてきた成果だと言える。そのことが「将来の夢や目標をもっている」と答える児童が多い、というアンケート結果にもつながっていると考えられる。



○「あいさつを自分からしていますか」という設問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合が市平均より高い。本校の年間目標である「自分からあいさつをしよう」を達成できるよう意識して、それぞれの委員会や各学級で取り組んでいることが成果として表れていると言える。



○電子機器やテレビに触れる時間は、高学年になるにつれて市平均よりも長い時間を選択する回答が多かった。学校保健委員会で話し合った「目の健康」を意識して、電子機器やテレビに触れる時間について、家庭と連携しながら継続して考えていきたい。

○「学校や社会のきまりを守ることは大切だと思いますか」について、「そう思う」と回答した児童の割合が大きい。これからも「笹小スタンダード」を各学級で確認したり道徳や学級活動の時間を充実させたりして、児童・教職員はもちろん、保護者の皆様とも共通理解を図りながら指導していきたい。